

研究テーマ「聞く力を伸ばし、思考力を高めるために、学び合い活動を取り入れた授業の展開」

八頭町立八東中学校

1 はじめに

本校は、昨年度から授業改善に取り組んでいる。その結果、生徒の授業態度は良いが、授業に受け身で、自分の考えを出し合って積極的に学ぶ姿勢が弱いということが明らかになった。

そこで、教師の一方的な講義形式の授業から脱し、生徒が主体的に授業に取り組み、活気あふれる授業となるように改善に取り組んだ。

2 研究のねらい

生徒が主体的に学習するには、次の点を改善することをねらいとした。

- ①聞く力を向上させるために、生徒同士が聞き、話す活動である学び合い活動を授業に取り入れる。
- ②授業のねらいを明確にするために、本時の学習目標の設定と生徒の振り返り活動に取り組む。

3 研究内容

(1)「学び合い活動を取り入れた授業の展開」

①学び合い活動を促進するために、学び合いの過程を次の4段階で捉えた。

段階	活動の視点
発想	自分の考えを持つこと
表出	自分の考えを仲間に伝えること
比較	自分の考えと仲間の考えとを比較して、共通点や相違点に気づくこと
練り上げ	仲間といっしょに考えを深めたり、自分の中で考えが深まったりすること

②学び合い活動を促すために発表の仕方を指導した。

自分の考えを伝える場合、先に結論を述べて

から、その後で、必ず根拠や理由を説明する。「～です。なぜならば～だからです。」

「～と考えます。その理由は、～だからです。」

(2)「本時の学習目標の設定と生徒の振り返り活動」

- ①本時の学習目標を生徒に分かりやすい言葉で板書した。
- ②学習目標の妥当性と授業の展開との整合性の検討

(3)「指導案と授業評価の工夫」

- ①学び合い活動を取り入れた授業を展開するために東部教育局作成の冊子『元気のある園内・校内研修の手引き』にある指導案形式を基に次のような工夫をした。【資料参照】
- ②授業の評価に視点を定めたKJ法を活用した。

	良い点	課題	改善点
目標と振り返り			
学び合いの設定			
学び合いの活動			

ア. 授業参観をしながら青い付箋に良い点を、赤い付箋に課題を記入する。

イ. 次の様式の表を模造紙に書き、付箋を貼りながらKJ法でまとめていく。

ウ. 付箋をグルーピングしてキーワードとなる言葉を書く。

エ. グルーピングした付箋同士に関係があれ

ば、矢印や線で結ぶなどしてその関係を表す。

オ. 課題に対して、改善案があれば記入する。

4 スーパーバイザーの役割

スーパーバイザーの広島大学大学院教育学研究科角屋重樹教授に、本時の学習目標について指導を受けた。その内容は、次のようなものである。

「本時の目標」は、抽象的な表現になりやすい。また、目標には、その時間で達成可能なもの（知識・技能）と、複数の時間に渡って活動しないと達成されないもの（能力）がある。目標を生徒に提示するならば、目標に対する評価（方法）を生徒に伝える必要がある。つまり、授業の終わりに達成したかどうかを自己評価できるようにしておく（＝生徒の行為で獲得すべきことを示す）。例えば、ワークシートなどに明記しておく。

また、研究課題については、次のような指導を受けた。

「聞く」というが、聞いているようであり聞いていないことがある。心を無にして聞くことはあり得ない。必ず自分なりに経験に照らし合わせて意味づけをしながら聞いている。つまり、「聞く」とは、自分と同じかどうか判断したり、関係があるかどうか中止したりしながら聞くことである。

「比較」・「分類」・「関係づける」ことをしながら聞くことが思考することである。

「学び合い」とは、人の行為や発言には、必ずその前提となる原因（条件）とその結果（目的）がある。他者との関わり合いから自分にはないものを得ることによって、互いに尊敬し合うことが学び合いである。基本的な考え方として、人はみんな違っていい、相手は自分にはないすばらしい存在であ

ると感じるものが学び合いである。具体的な手立てとして、考え方の違う人を集めて、意見交換をしてみる（グループや全体など形にはこだわらない）。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ①学び合い活動に取り組んだことで、授業に活気が出て、生徒の学習姿勢が積極的になった。
- ②学び合いの過程を4段階で捉えることで改善の視点を定めることができた。それにより、学び合い活動を組み立てるための手立てや支援が考えやすくなった。
- ③視点を定めたKJ法を活用することによって、具体的に改善策を考えることができた。
- ④全教科で授業の最初に、本時の目標を提示することにより、授業のねらいが明確になった。

(2) 今後の課題

- ①学び合い活動を取り入れ、授業に活気が出て、生徒の授業態度は活発になったが、意見の交換や内容の深まりがまだ十分ではない。さらなる指導法の改善工夫が必要である。
- ②発表の仕方を教室に掲示しており、継続して指導をしていく。
- ③本時の学習目標の設定と学習過程の整合性を検討していく。

6 おわりに

本年度の研究では、角屋教授とともに、同じ広島大学大学院教育学研究科の木下博義講師にも指導をしていただいた。木下講師には、学び合い活動での発表の仕方や授業の学習目標と振り返りについて指導を受けた。また、アクションリサーチという手法を紹介していただいた。アクションリサーチは、一般化を前提とした研究手法とは異なり、特定の教室の状況を前提として研究するものである。来年度は、アクションリサーチの手法を研修し、研究の手段として活用してみたい。

【資料】

第〇学年〇組〇〇科学習指導案（略案）

〇年〇月〇日（〇）〇校時

指導者 〇〇 〇〇

1. 単元名（題材名）

＊ 単元名は，育てたい力が分り，生徒の興味・関心を高めるものにしましょう。生徒と共に単元名を作成することもあります。

2. 単元の目標

＊ 1 単元で評価の観点全てに関わる目標を立てる必要はありません。単元の特徴を踏まえ，重点化を図りましょう。

3. 単元の学び合い活動

学び合いの段階	具体的な活動（評価方法）
自分で考えよう（発想）	
仲間に自分の考えを伝えよう（表出）	
仲間の考えと比べてみよう（比較）	
仲間といっしょに考えよう（練り上げ）	

＊ 1 単元で学び合い活動全てに関わる活動を立てる必要はありません。単元の特徴を踏まえ，考えましょう。

4. 指導と評価の計画

時	ねらい，中心となる学習活動	具体的な評価規準・評価方法・評価場面
	<p>＊単元の目標の実現に向けて，1 時間ごとの学習を効果的に積み重ねましょう。</p> <p>＊学習活動で，学び合い活動にあたるものには★印をつけて記述し，記述の後に（ ）で「発想」「表出」「比較」「練り上げ」と段階を示します。</p> <p>例：★歌詞の内容による曲想の変化を感じ取りながら歌う。（発想，表出）</p>	<p>＊評価項目は1 時間に1～2 つに絞りましょう。</p> <p>＊表や記号を使うなどして簡潔にまとめ，指導と評価計画が視覚的に把握できるように工夫しましょう。</p>

5. 本時のねらい

＊ 評価の観点を意識しながら設定しましょう。

＊ 本時のねらいの記述と共に，黒板に表記する言葉を「 」で示します。

6. 本時の評価規準（振り返りの方法とその内容）

* ねらいは「知識・理解」なのに、評価規準が「関心・意欲・態度」というように、評価の観点
が異なっていないか確認しましょう。

7. 本時の学習過程

	学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ○評価 [方法] ※手立て
導 入	* 本時について、生徒の立場から「～する。」と示します。	* 発問や生徒の反応を予想することで、効果的な指導・支援が考えられます。 * 本時の学習への興味・関心・意欲が沸くような資料提示、発問等を工夫しましょう。	* 「プリントを配る」などの指示ではなく、本時のねらいを達成するために配慮する点を具体的に示しましょう。
展 開	* 授業は、まずねらいを達成するための中心となる活動から考えて組み立てましょう。 * 主発問は大きく枠で囲んで 12p で記述する。 例： <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 速度・強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現しよう。 </div>	* ペアやグループ活動等を行う場合は、ねらいとの関連を確認しましょう。	* 本時の評価は、ねらいを達成するための中心となる活動で行います。その際、支援を要する生徒への具体的な手立てをしっかりと考えておきましょう。
	* 学び合い活動に関する活動は「 」で囲んで示します。また、学び合い活動には、（ ）で学びの段階を示します。 例： <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・自分の考えをワークシートにまとめる。(発想) </div>	例： ○自分のイメージをもとに、グループで意見交換をしよう。 ・ゆったりとした気持ちで歌う。 ・だんだんと声を大きくして感情を込めていく。	例： ・イメージを伝えるために、歌ってみてもよいことを伝える。 ○表現要素(速度、強弱など)による曲想の変化を感じ取って、イメージや考えを持って表現の工夫をしている。[観察] ※生徒が工夫した表現をもとに教師が歌ってみせる。
ま と め	* 学習活動の振り返りをする中で、児童生徒が本時の学習について分かったことや分らなかったことが明確になります。	* 生徒の新たな疑問や課題を全体に投げかけることで、次時の学習意欲につながります。	